

## 砺波信用金庫の〈経営理念〉

- 健全で活力のある中小企業の育成発展
- 豊かで安定した家庭生活の実現
- 明るく活気に溢れた街作り

## 令和元年度決算報告

### ■ 預金、貸出金の状況

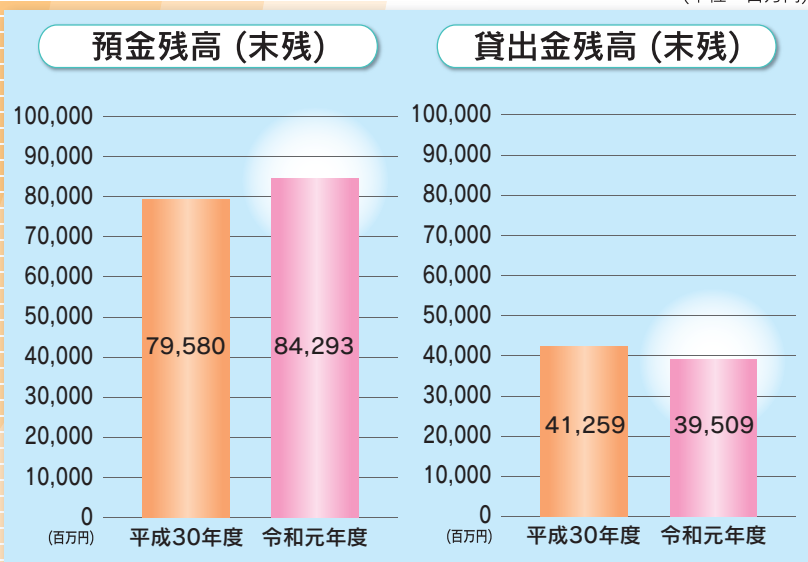
(単位：百万円)

| 区 分             | 平成30年度 | 令和元年度  |
|-----------------|--------|--------|
| 預 金 残 高 (末 残)   | 79,580 | 84,293 |
| 貸 出 金 残 高 (末 残) | 41,259 | 39,509 |

令和元年度(令和2年3月末)の預金残高は、842億93百万円で、前年度(平成31年3月末)対比47億13百万円、5.92%の増加となりました。流動性預金、定期性預金ともに増加となりました。

また、貸出金残高は、395億9百万円で、前年度(平成31年3月末)対比17億50百万円、4.24%の減少となりました。金融機関向け融資が増加となりましたが、一般法人向け融資や地方公共団体への融資のほか、住宅ローンなど個人向け融資が減少となりました。

(単位：百万円)



### ■ 収益(業務純益、経常利益、当期純利益)の状況

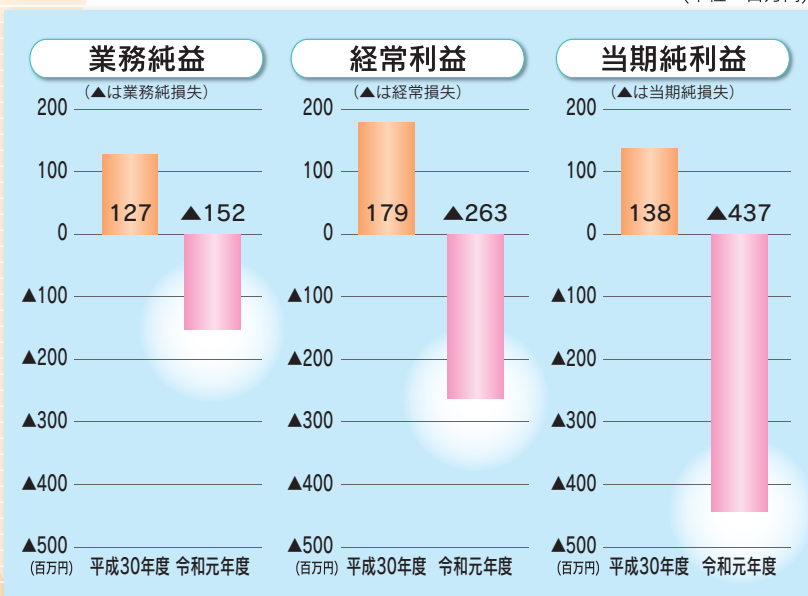
(単位：百万円)

| 区 分                    | 平成30年度 | 令和元年度 |
|------------------------|--------|-------|
| 業 務 純 益<br>(▲は業務純損失)   | 127    | ▲152  |
| 経 常 利 益<br>(▲は経常損失)    | 179    | ▲263  |
| 当 期 純 利 益<br>(▲は当期純損失) | 138    | ▲437  |

令和元年度の収益状況は、業務純損失が1億52百万円、経常損失が2億63百万円、当期純損失が4億37百万円となりました。

要因としましては、取引先企業の業況悪化や将来に備えた厳格な自己査定により不良債権処理費用が大幅に増加したこと及び固定資産の減損処理費用の発生などによるものです。

(単位：百万円)



### 〔令和2年度への取組み〕

令和2年度は、貸出金の増加などに取組み、業務純益は1億41百万円、経常利益は47百万円、当期純利益は10百万円を計画しています。